

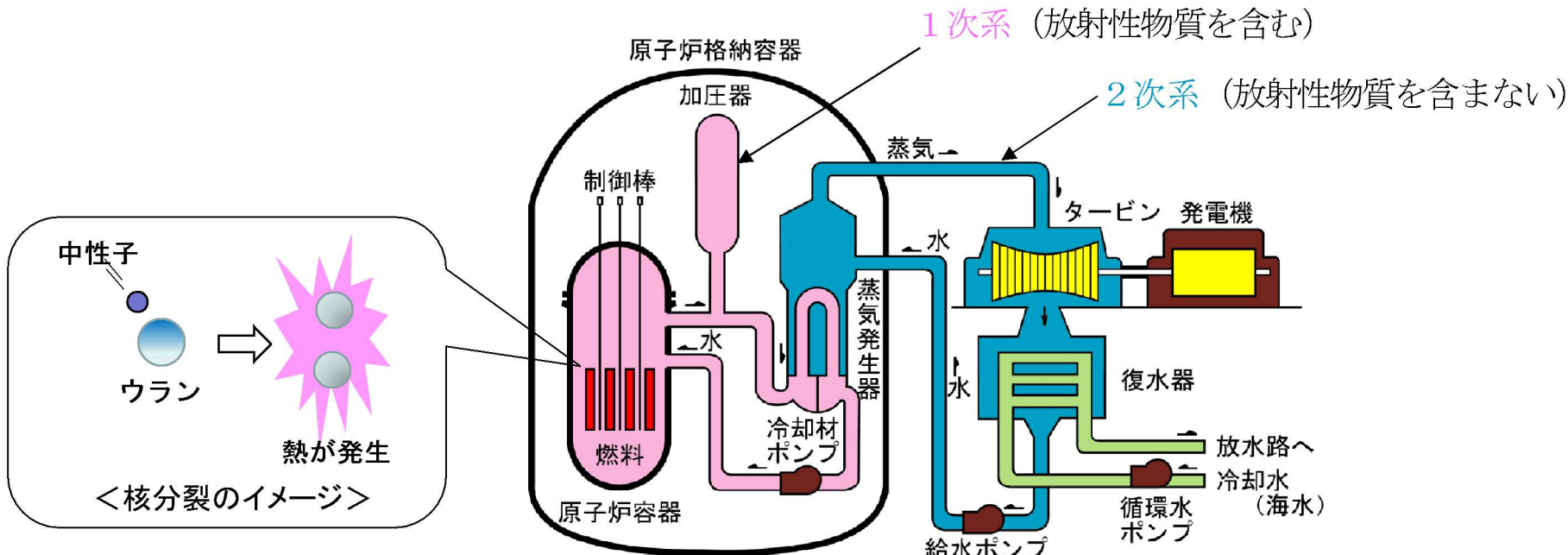
玄海原子力発電所の運転状況等について

2024年1月30日
九州電力株式会社

1. 原子力発電所とは

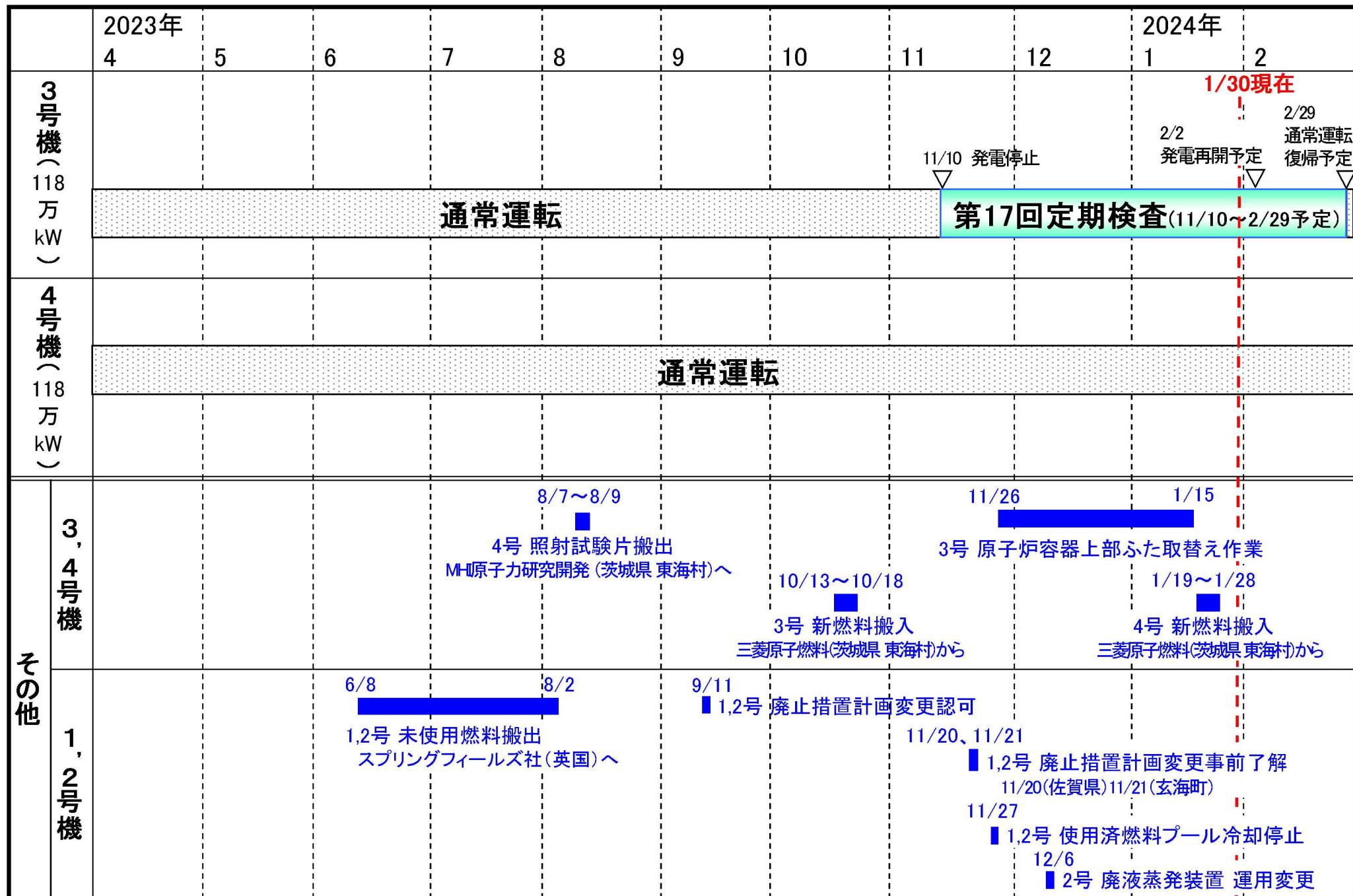
○原子力発電所では、燃料のウランが核分裂する際に出る熱の力を利用して蒸気を作り、その蒸気でタービンを回して発電を行います。

○約1年(13か月)に1回、発電所の運転を止めて定期検査を行い、発電所の設備を安全な状態に維持し、異常の発生を未然に防止することにより、発電所の安全・安定運転を継続しています。



[加圧水型軽水炉 (PWR : Pressurized Water Reactor) の特徴 (九州電力、四国電力、関西電力、日本原子力発電、北海道電力で採用)]
原子炉周りの水 (ピンク : 1次系) とタービンを回す蒸気を作るための水 (青色 : 2次系) を分離することにより、原子炉周りの水を原子炉格納容器内に閉じ込めています。

2. 玄海原子力発電所の状況について(2023年4月～)



※1, 2号機は廃止措置中(資料3参照)

参 考

(1) 3、4号機の発電状況(2023年4月～2023年12月)

	3号機	4号機	合計
定格電気出力 (万kW)	118	118	236
発電電力量 (億kWh)	64.5	78.8	143.3
利用率※1 (%)	82.8	101.2	92.0

$$\text{※1 利用率} = \frac{\text{(発電電力量)}}{\text{(暦時間)} \times \text{(定格電気出力)}} \times 100(\%)$$

$$= \frac{\text{その期間の実際に発電した電力量}}{\text{その期間を定格電気出力で発電した時の電力量}} \times 100(\%)$$

(2) 放射性廃棄物の管理状況

① 気体・液体廃棄物の放出量(2023年4月～2023年12月)

種類	放出量 (ベクレル※2)	放出管理目標値 (ベクレル/年)
気体廃棄物	定量限界未満※3	1.0×10^{15}
液体廃棄物	定量限界未満※3	7.5×10^{10}

※2 放射性物質が放射線を出す能力を表す単位

※3 測定の結果、放射性物質の量が検出できる
下限値未満

② 固体廃棄物の保管量(2023年12月末時点)

	貯蔵量 (200リットルドラム缶相当)	貯蔵設備容量※4 (200リットルドラム缶相当)
原子炉施設合計	40,304本	約49,000本

※4 敷地内に設置している固体廃棄物貯蔵庫
の容量

(3) 燃料輸送等の状況(2023年4月～)

① 新燃料(取替用燃料)の搬入

搬入(完了)年月日	体数	搬入元	搬入先	輸送手段
2023年10月18日	84体	三菱原子燃料(株)	3号機	海上
2024年1月28日	76体	三菱原子燃料(株)	4号機	海上

② 新燃料(未使用燃料)の搬出

搬出(出港)年月日	体数	搬出元	搬出先	輸送手段
2023年6月8日	28体	1号機	英国スプリング フィールズ社	海上
	12体	2号機		

- ③ 使用済燃料の搬出 該当なし
- ④ 使用済燃料の構内運搬 該当なし
- ⑤ 低レベル放射性廃棄物の搬出 2024年2月予定